



令和2年度が、まもなく終わろうとしています。

これを持ちまして、36年間の学校教員生活を、この鶴見養護学校でピリオドを打ちます。

鶴見養護学校での3年間、「社会に開かれた教育課程」による教育活動を、地域、保護者に温かく支えられ、「チーム鶴見」として実践を推進してきました。例えば、地域資源やゲストティーチャーの積極的な活用、分教室の個性あふれる教育活動、ツイッターやHP、時にはタウンニュースによる情報発信、校内やHPを通じての美術作品展の開催、地域関係機関のご協力による「共助」をテーマとした防災キャンプ等を実施ができました。これらの取組によって、平成30年度、令和元年度、連続で神奈川県教育委員会による職員功績賞（教育長表彰）を受賞することができました。

この1年間は、学校を含め、社会全体がコロナ禍に多大な影響を受け、前例のない方針や変更が求められました。その中で、地域や保護者のご協力の下、感染症対策を講じつつ、安全に熟慮した教育活動を推進した結果、学校での感染拡大はなく、臨時休業措置も不要でした。また、制限がありながらも、学校環境を最大限工夫活用した教育活動、着実な進路指導や保護者懇談会を実施し、また休業期間の給食費やPTA会費等の速やかな返金も実施しました。このような取組は、教育委員会より多大に評価され、コロナ禍における「新たな学校生活創造チーム」として、今年度も職員功績賞（教育長表彰）を受賞しました。

このコロナによる社会状況の変化は、学校経営も含め多大な影響を与え続けています。しかしながら、本校が積み重ねてきた「チーム鶴見」としての実践は、この危機的状況においても、大きな推進力があることが示されました。

長きにわたりご協力いただいた皆様と出会えたことに、心より感謝を重ねて申し上げます。なお、私事になりますが、今後は、学校をしばらく離れ、ランニングを主とした障害者スポーツの実践にウエイトを移しつつ、関連業務に就く予定です。

今後とも、引続き本校への温かいご支援の程、宜しくお願い致します。

